



第71回 渋川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和3年8月3日（火）午後7時00分～

会場：渋川ほっとプラザ4階

I 講演：『高齢者の栄養サポート』

～嚥下機能維持や褥瘡予防について～

講師：鶴巻温泉病院 栄養サポート室

室長 高崎 美幸 先生



『HAPPY』という言葉が好き」という高崎先生、その言葉通り笑顔がとても素敵な先生でした。

さて、今回は「高齢者の栄養サポート」というテーマで実際の

経験をもとにご講演いただきました。先生は神奈川県で訪問栄養食事指導を行っており、当初の想定範囲より広い地域で依頼があるそうで、ニーズの高さがうかがわれます。しかし、やはり「(病院から)外に出ていく」というのはハードルが高く、院内での栄養サポートの重要性を理解してもらうところから始まり、次に地域との連携を深めていくのに何年もかかったとのこと、ひとつひとつの積み重ねがあり、今の需要の高さにつながっているのだと思います。

さて、本研究会は「食べられない人をどう工夫して食べられるようにするか」がメインの講演が多いのですが、まず大事なことは「本人、家族に口から食べたいという希望があること。これがある人は機能障害が重度であっても希望がある。」とのこと。なんとなく「食べること」を当然のように考えていましたが、そもそも気持ちがいなければ上手くいくものもうまくいかないという、当たり前のことに気づかされました。

また、「その人らしく」「本人・家族の意思を大事に」ということを何度もおっしゃっており、患者さん（利用者さん）に寄り添っていくという姿勢を強く感じました。

本人の希望をサポートし、叶えていくことで本人が「笑顔」になっていく。→本人の笑顔を見て周りが「笑顔」になっていく。→地域が元気になっていく。

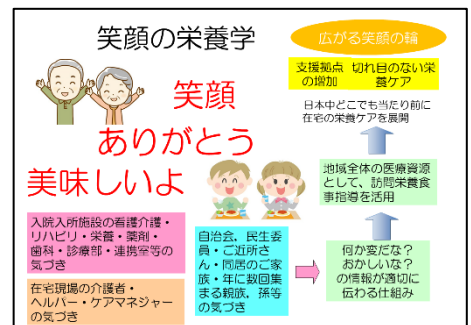
先生は管理栄養士として栄養支援から笑顔を広げていますが、職種は関係なく、できることがあるのかではと思います。

参加者内訳

職種	参加人数
医師	2
歯科医師	6
保健師・看護師	5
ST・OT・PT	7
管理栄養士・栄養士	5
その他	9
合計	41

Web参加※ 14ヶ所

※1ヶ所で複数名の参加あり



Take-home Message



地域栄養ケアでは「その人らしい生活」に向けての視点。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活をするために、「在宅」で生活できる環境を創出する取り組み。

本人の現在の生活環境・リスクや人間関係・残存能力を、最大限生かすことを優先する。

多職種・他事業所と連携、マネジメント能力を育てる。

そして地域に笑顔の輪を広げましょう！



本人・家族のHAPPY！
暮らしたい場所で自分らしく生きる
"Enjoyment Of Life"！！
栄養ひとつで大きく変わります！！

ありがとうございました。

その人らしい生活スタイルを守り、
思わず笑顔がこぼれる！
そんな栄養支援を目指しています。

